

## 鎌倉市「放課後かまくらっ子事業」調査報告書の概要

### 1. 調査の趣旨

本市では、平成 30 年 6 月より、全ての児童が放課後などの時間を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる事業として、子どもの家(学童保育)とアフタースクール(放課後子ども教室)を一体的に実施する「放課後子ども総合プラン」の鎌倉版である「放課後かまくらっ子」を展開しており、令和 2 年度までに全校区での実施を予定している。

全ての児童を対象とした放課後の居場所の整備は鎌倉のみならず、我が国にとって喫緊の課題であるため、文部科学省でも平成 16 年度より継続して事業を全国で展開してきており、教室数は平成 29 年度では 17,615 か所（県内で 754 か所）に上っている。他方で、各地域の状況に応じて展開されるため、事業内容は多様であり、したがって成果や課題についても地域や事業の特色が反映されることも明らかとなっている。そこで、本調査は鎌倉市での事業の現状や成果、課題などを明らかにし、より効果的な事業運営の一助とするため、国の調査をベースとした質問紙を作成し、実施したものである。

### 2. 調査の対象（回収数）

実施教室	子ども調査（回収数）	保護者調査（回収数）
深沢小学校 放課後かまくらっ子	94	85
関谷小学校 放課後かまくらっ子	35	53
小坂小学校 放課後かまくらっ子	114	60
御成小学校 放課後かまくらっ子	112	30
第一小学校 放課後かまくらっ子	56	39
第二小学校 放課後かまくらっ子	40	38

### 3. 調査の方法と調査事項

調査は令和元年 8 月現在、事業を実施していた放課後かまくらっ子全 6 教室とした。対象は放課後かまくらっ子の利用状況や事業展開の成果、課題だけでなく、鎌倉市における放課後の子どもを取り巻く環境の現状やニーズ、課題等についても多角的に調査・分析するため、調査対象者を放課後かまくらっ子を利用している全学年の児童とその保護者とした。原則として、子ども調査は各放課後かまくらっ子の教室で実施してその場で回収し、保護者調査は子ども調査を実施した保護者に対して、児童を通じて配付し、家庭で実施してもらい、配付日から 1 週間を目安に期限を定めて回収した。

### 4. 調査の時期

平成 31 年 3 月 ～ 令和元年 8 月

### 5. 調査主体

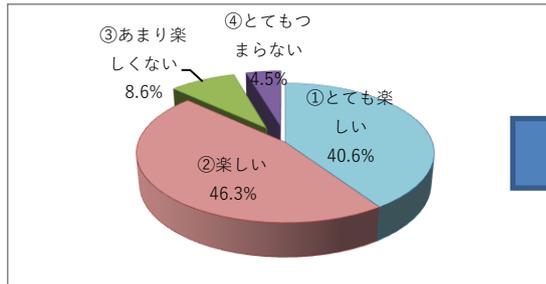
鎌倉市こどもみらい部青少年課において、放課後かまくらっ子事業の一層の推進を資する目的で、学識経験者等による「放課後かまくらっ子 評価・検証部会」（部会長:小泉裕子 鎌倉女子大学短期大学部学部長）を設置し、調査の方針や項目などの検討を行った。調査結果の分析ならびに報告書の執筆は、調査研究代表である猿渡智衛 放課後かまくらっ子推進参与が行った。

# 放課後かまくらっ子事業調査結果のポイント

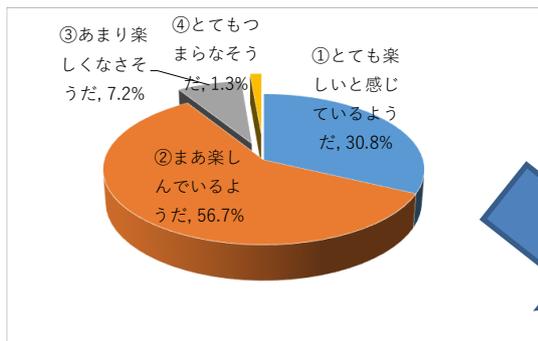
## I 放課後かまくらっ子事業の評価は次のようになっている。

### 1. 参加している子どもの9割は、放課後かまくらっ子での活動を楽しんでいる。

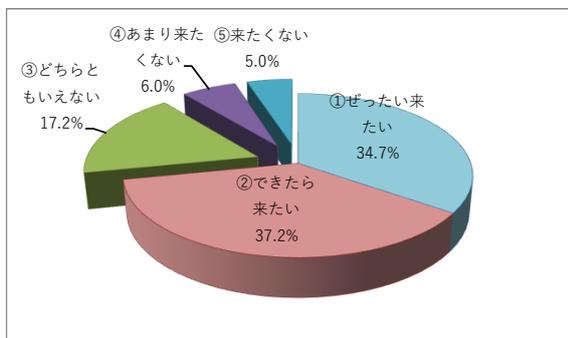
あなたは「放課後かまくらっ子」に来ていて、楽しいですか。【子ども調査】



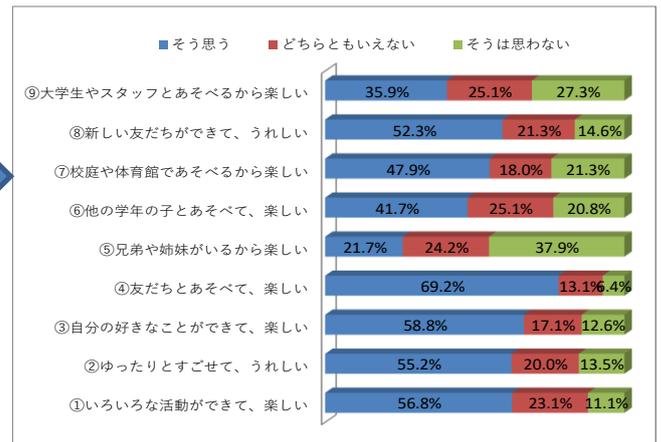
お父さんは、「放課後かまくらっ子」での活動をどのように感じているようですか。【保護者調査】



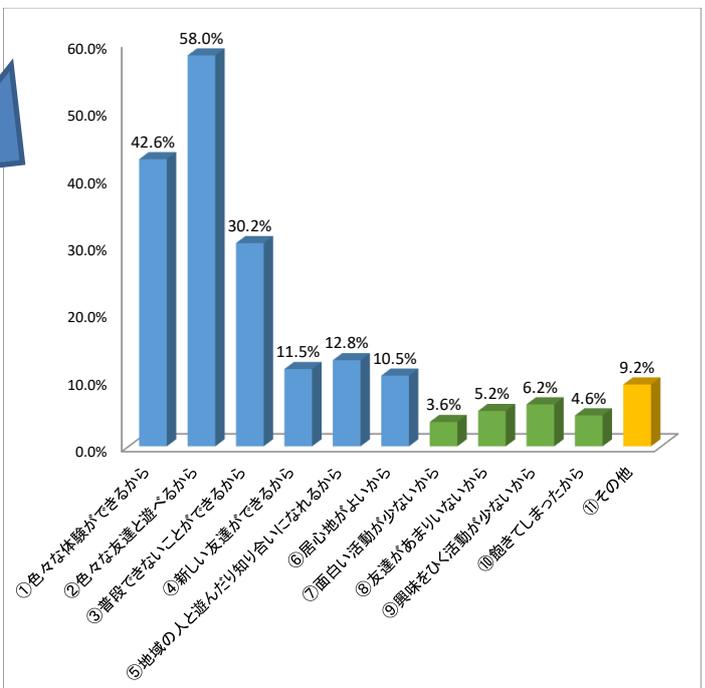
あなたはこれからも「放課後かまくらっ子」に来たいと思いますか。【子ども調査】



あなたは「放課後かまくらっ子」について、どう思いますか。【子ども調査】



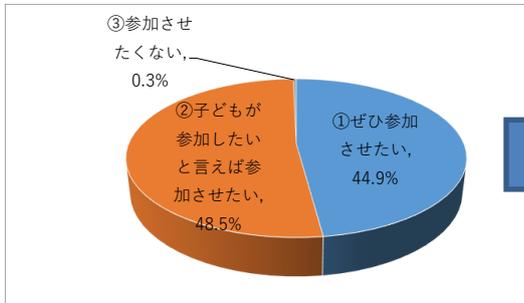
では、具体的にはどのような点でそう感じているようですか。【保護者調査】



楽しいと感じる理由については、低中学年では「友だちとあそべて、楽しい」が70%程度と最も高く、高学年では「ゆったりとすごせて、うれしい」が64.7%と最も高い値であった。「新しい友だちができて、うれしい」は低学年の結果では61.2%に上ったが、中学年では40.9%、高学年では32.4%など、学年により大きな違いが見られた。また、かまくらっ子が「とても楽しい」という群では、同じ学年の友だちが「ふえた」という回答の割合は75.9%、違う学年の友だちについても60.1%が「ふえた」と回答し、非常に高いことが明らかとなった。

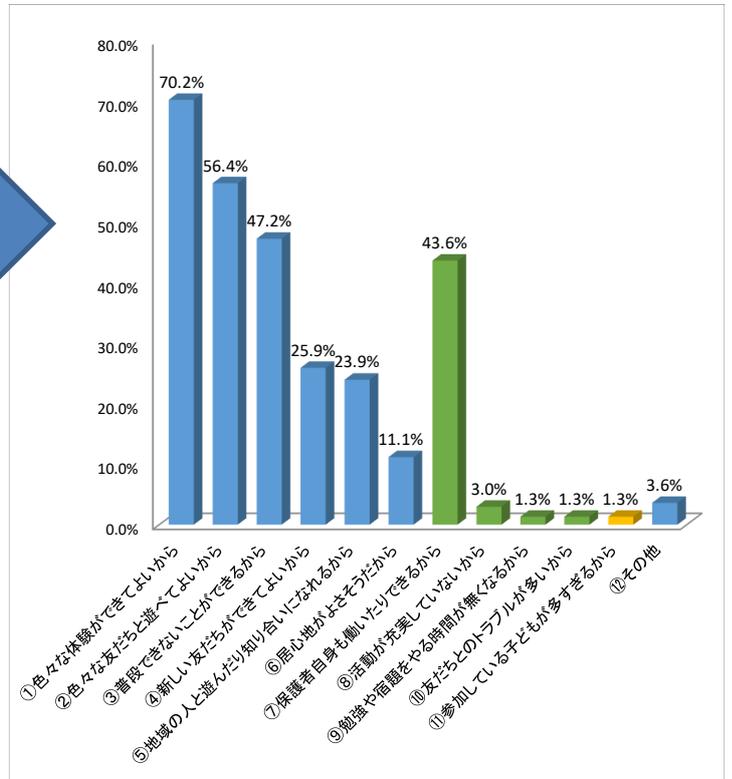
## 2. 色々な体験ができてよいと保護者も評価している。

あなたは、今後「放課後かまくらっ子」にお子さんを参加させたいと思いますか。【保護者調査】



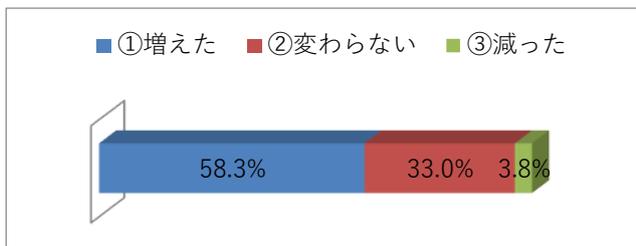
今後の参加に関する理由については、「色々な体験ができてよいから」や「普段できないことができるから」といった積極的な参加理由の選択率が、子ども自身のニーズによる参加の群で高い一方、保護者自身が働けるという消極的な理由については保護者の考えによる参加の群が高い結果となった。

では、具体的にはどのような理由でそう思われますか。【保護者調査】



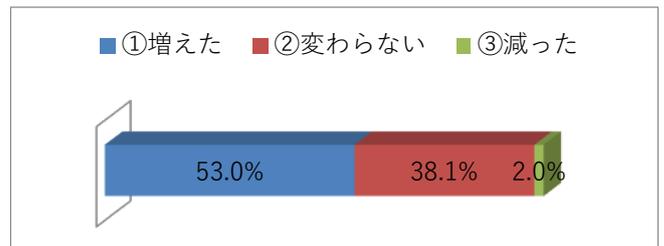
## 3. 参加している子どもの交友関係が広がり始めている。

あなたは「放課後かまくらっ子」に来るようになってから、**同じ学年**の友だちはふえましたか。【子ども調査】



同学年の友だち	低学年	中学年	高学年
①増えた	70.1%	41.7%	39.4%
②変わらない	25.9%	49.6%	39.4%
③減った	2.5%	4.7%	12.1%

あなたは「放課後かまくらっ子」に来るようになってから、**違う学年**の友だちはふえましたか。【子ども調査】

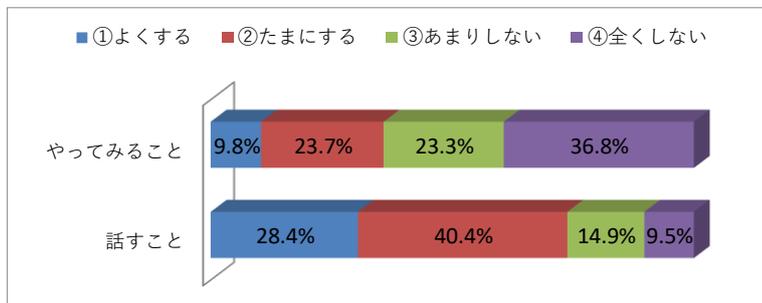


異学年の友だち	低学年	中学年	高学年
①増えた	56.1%	48.8%	57.6%
②変わらない	38.5%	39.4%	39.4%
③減った	1.1%	4.7%	0.0%

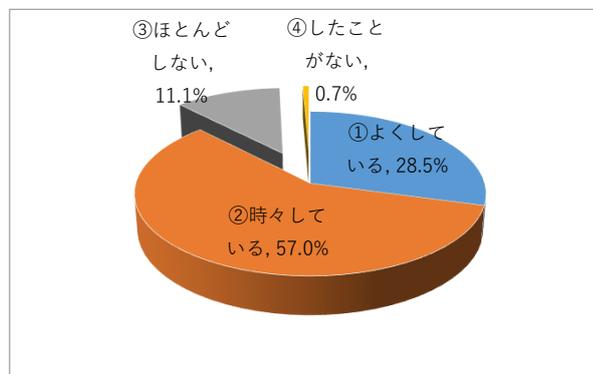
同じ学年の友だちが増えたと回答した割合は、低学年では70.1%であるのに対して、中学年では41.7%、高学年では39.4%と学年が上がるにつれて、割合が低下する。また、異学年交流が増えたと回答した児童は43.5%を占める。

#### 4. かまくらっ子の活動が家庭でも広がり始めている。

あなたは「放課後かまくらっ子」でやったことや習ったことをお家の人とやってみることはありますか。【子ども調査】  
お家の人に話すことはありますか。【子ども調査】



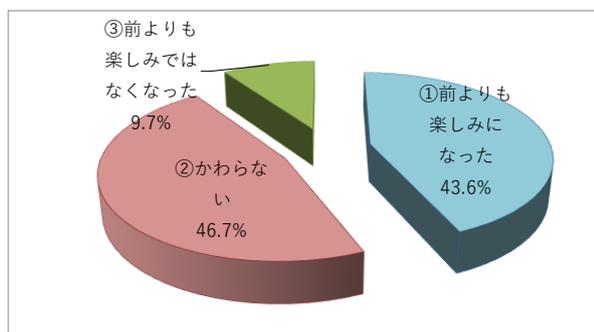
放課後かまくらっ子」の活動についてお子さんと話をすることはありますか。【保護者調査】



家庭でかまくらっ子の話をよくすると回答した保護者ほど、子どもの変容に関して、「とても変わった」と「すこし変わった」の選択率が高く、特に「以前よりも生き活きと放課後の時間を過ごすようになった」については、47.1%の保護者が回答していた。また、感想についても「とても楽しいと感じているようだ」の割合が50.6%と高く、その理由についても、「色々な友達と遊べるから」や「色々な体験ができるから」など、ポジティブな項目の選択率が高い。

#### 5. 参加している子どもの4割は、学校への意欲も高まっている。

あなたは「放課後かまくらっ子」が始まってから、学校に行くのがより楽しみになりましたか。【子ども調査】

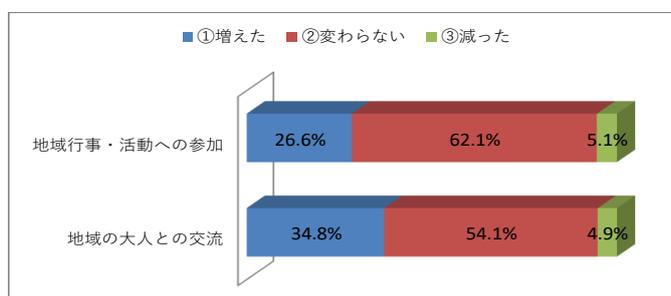


	低学年	中学年	高学年
①前よりも楽しみになった	50.0%	25.2%	18.2%
②かわらない	38.1%	52.8%	51.5%
③前よりも楽しみではなくなった	7.2%	13.4%	9.1%

低学年では50.0%と実に半数の子どもが「前よりも楽しみになった」と回答していたが、中学年では25.2%に留まり、高学年ではわずか18.2%となっている。

#### 6. 参加している子どもの3割は、地域との関わりが増えてきている

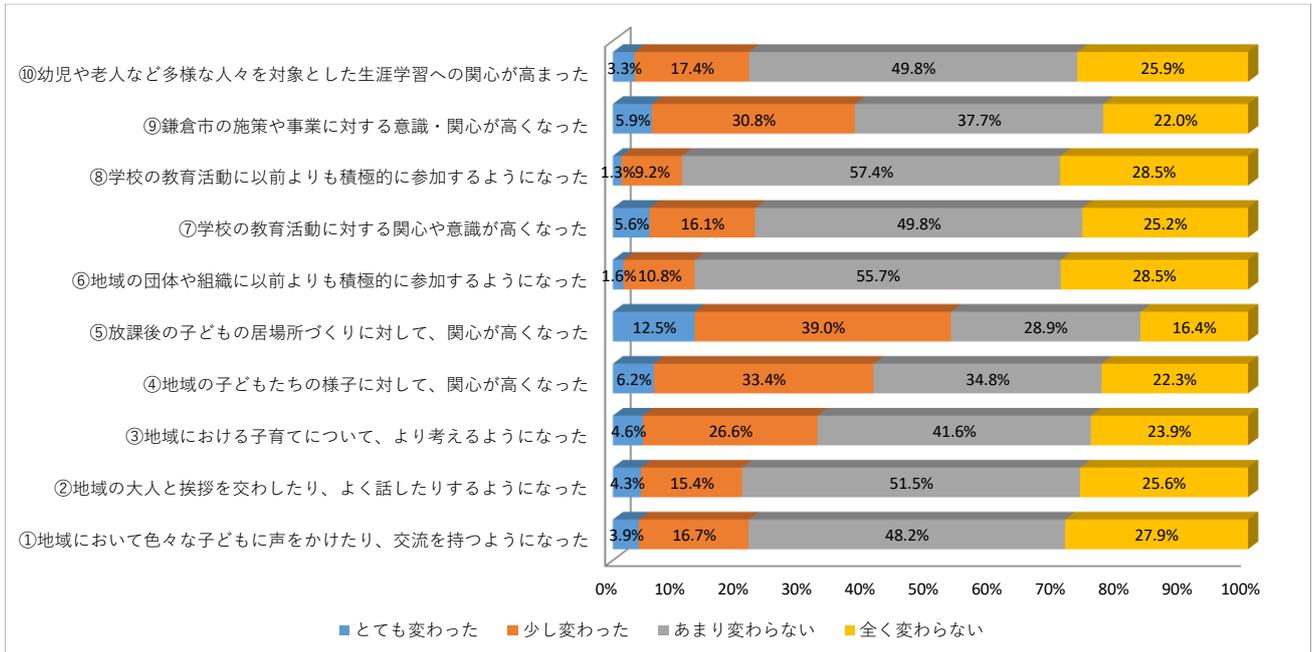
あなたは「放課後かまくらっ子」に来るようになってから、地域の大人の人とあいさつをしたり、話をしたりすることがふえましたか。【子ども調査】  
お祭りなどの地域の行事やおそうじなどの地域の活動に行くことがふえましたか。【子ども調査】



地域活動や地域行事への参加については、低学年の33.8%が「増えた」と回答していたが、中学年では16.5%、高学年も12.1%に留まっている。

## 7. 保護者の4割は、保護者自身の意識・関心も高まったと感じている。

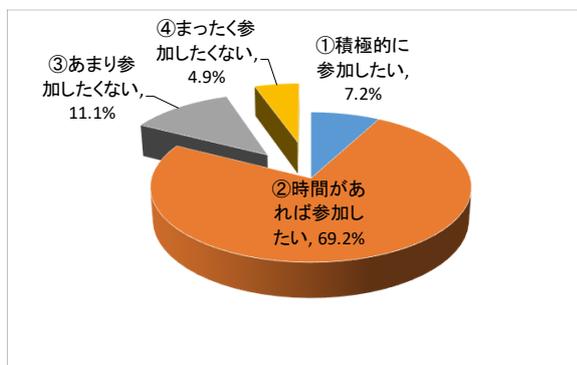
お子さんが「放課後かまくらっ子」に参加してから、保護者の皆様ご自身の意識や地域との関わりが変わったなど感じることはありましたか。【保護者調査】



家庭で子どもとかまくらっ子の話をしている保護者ほど、自分自身の変容も実感する傾向にあることが明らかとなった。放課後の子どもの居場所づくりや学校の教育活動など様々な意識・関心の高まりについては 50%前後の保護者が選択しており、地域で子どもに声かけをしたり、地域住民同士であいさつしたりするなどの行動面の変容においても 30%前後の保護者が自身に変化があったと回答している。

## 8. 保護者の8割は、かまくらっ子での親子交流企画に参加を希望している。

あなたご自身は、今後、「放課後かまくらっ子」で親子で交流できる企画があったら、参加したいと思いますか。【保護者調査】



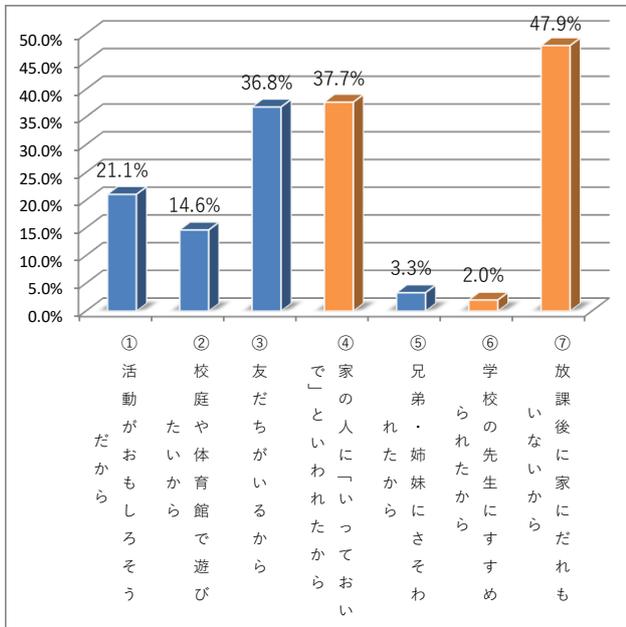
子どもはかまくらっ子をどう感じているか	積極的に参加したい	時間があれば参加したい	あまり参加したくない	まったく参加したくない
①とても楽しいと感じているようだ	54.5%	31.3%	29.4%	6.7%
②まあ楽しんでいるようだ	40.9%	58.3%	58.8%	53.3%
③あまり楽しくなさそうだ	4.5%	5.7%	5.9%	33.3%
④とてもつまらなそうだ	0.0%	1.4%	0.0%	6.7%

かまくらっ子での親子交流企画などに「積極的に参加したい」と回答した保護者の群では、子どもがかまくらっ子をとても楽しいと感じていると回答した割合が 54.5%を占めており、同様に家庭でかまくらっ子のことを話す頻度も高いことが明らかとなった。

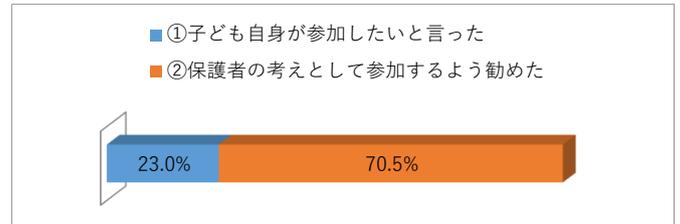
## II 一方、課題として次の点が浮かび上がっている。

### 1. 子ども自身の考えで参加している割合が低い。

あなたはなぜ、「放課後かまくらっ子」に来てるのですか。  
【子ども調査】



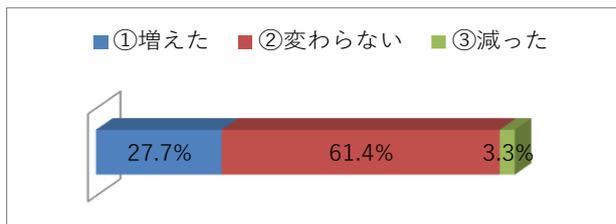
お子さんが「放課後かまくらっ子」に参加したきっかけは、お子さん自身の考えですか。それとも保護者の方の考えですか。【保護者調査】



子どもの満足度とのクロス集計結果では、子ども自身のニーズによって参加した群で、「とても楽しいと感じているようだ」と回答した保護者の割合が 55.7%と過半数を占める一方、保護者の考えで参加した群では 23.3%に留まっており、満足度が低かった。子どもが自発的にかまくらっ子に行きたいというように、より魅力的な体験活動の展開や居場所空間のデザインが今後、求められる。

### 2. 地域住民との人間関係の構築が限定的である。

あなたは「放課後かまくらっ子」に来るようになってから、地域に住む大人で知っている人はふえましたか。【子ども調査】



地域に住む大人で知っている人が増えたと回答した割合は、低学年では 32.4%であるのに対して、中学年では 23.6%、高学年では 12.1%と学年が上がるにつれて、割合が低下する。また、かまくらっ子に関わってほしい人材について、地域住民と回答した保護者は半数未満に留まり、同様にかまくらっ子に望むことについて、「地域の大人や大学生がもっと参加するようにしてほしい」という項目を回答した低中学年の保護者は 17%程度に留まった。かまくらっ子が子どもと地域住民との出会いの場となることも積極的に伝えていく必要がある。

今後の「放課後かまくらっ子」の活動に、どのような人に関わってほしいと思いますか。【保護者調査】

